

(法第28条関係)

平成24年度事業報告書

(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)

特定非営利活動法人ふよう土2100

1 事業実施の成果

本年度は、定款に掲げる「東日本大震災の被災者に対する復興支援事業」や「子育て支援・障がい者支援に関わる事業」を中心に活動を続けて参りました。

年度当初に掲げた、赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート基金」助成事業の「女性の心のケア事業」ネイル教室、全日本社会貢献団体機構の助成事業「地域交流再生事業・ほのぼの温泉巡回バスプロジェクト」、赤い羽根の助成事業「障がい者と家族の支援」交流サロンひかりの運営に加えて、様々な事業の推進に取り組んできましたので、それぞれの事業についての実施状況と成果についてまとめる。

(1) 東日本大震災の被災者に対する復興支援事業

①全日本社会貢献団体機構助成事業「ほのぼの温泉プロジェクト」

事業内容

いわき湯本温泉の温泉巡回バスを市内の各仮設住宅を巡回し、高齢者をはじめ被災者に温泉入浴を楽しんでいただき、健康づくりの促進を進める。入浴後は休息スペースを提供し、従前のコミュニティから切り離された形で生活再建に取り組んでいる被災者が、温泉入浴を機に周辺に住む人々との交わりを深める機会を提供するだけでなく、従前のコミュニティ単位で温泉巡回バスの利用を呼び掛け、地域コミュニティの再生の機会を提供する。民間のマイクロバスを借り受け、そのバスで市内の各仮設住宅を巡回し、仮設住宅に住んでいる被災者の方々に、いわき湯本温泉の入浴を楽しんでいただき、健康づくりの促進や引きこもりの防止、仲間づくりのきっかけづくりを進める。

旅館の畳みの会食場を提供し、体験プログラムを行う。メニューは、フラ、ヨガ、和紙づくり、いわき絵凧づくりなどです。従前のコミュニティから切り離された形で生活再建に取り組んでいる被災者が、温泉入浴を機に同地区仮設住宅の方々、入浴常連客や講師の方など温泉地周辺に住む人との交わりを深める。

実施期間

平成24年5月～10月

成果

東日本大震災・福島第一原子力発電所の事故によって、いわき市に避難を余儀なくされ

た双葉郡 8 町村・南相馬市の避難者も地元の地域コミュニティを失い、孤独な生活を続けていました。双葉郡 21,699 人 南相馬市 787 人 田村市 28 人 川俣町 2 名 飯館村 16 人。

東日本大震災からまもなく 2 年が経とうとしています。時間が経過するにつれて、新たな問題が生まれてきました。阪神大震災後の孤独死は、3 年後の孤独死、その 8 割が男性でした。家族を失ったショック、イベントやサークル活動など元々外出するのが得意ではないため、昼間からお酒を飲み、アルコール依存症などに陥る男性も少なくないといわれています。

長期にわたる仮設生活からのストレスやアルコール依存症との関係が指摘されています。今もなお働きに出ることができない仮設住宅に住む避難者も多く、移住された方と、地元いわき市民との間で、誤解などから軋轢が生まれてきています。

今回のプロジェクトを実施した結果、温泉入浴という行為が、男性の関心が高く、外出するための動機として効果的であったこと。そして、温泉入浴で地元の方との挨拶がスムーズに交わせるきっかけ、さらに浴槽の中の会話が、非常にぎっくばらんであることから、友達になりやすいという成果ができました。温泉や人という地域の資源を結集し、震災被害による被災者への支援、そして、今後の復旧活動をより効果的かつ迅速に進め、いままで以上に地域のコミュニティを再構築することが必要であるが、それを温泉入浴という行為がそれを促進させる結果になりました。

平成 24 年 5 月から 10 月まで温泉巡回バスを 90 日間巡回し、1 日平均 20 人の利用。延べ 1800 人の仮設住宅住民に利用していただき、被災者の健康維持や生きがい、そして何よりもコミュニティの再構築に寄与いたしました。

25 年度は一定の料金を利用者から頂き、バスの送迎、温泉入浴を継続的に行うこととします。被災者が気軽にお茶を歓談できる場づくりを目標とし、被災者に対する情報の収集と提供する場所を提供。また、被災者の悩みを聞き、その解決に向けたアドバイスを提供することによって、被災者が安心して日常生活を過ごすことができる環境を末永く維持したいと考えております。

② じゃんがら念仏踊り継承育成事業

・実施期間

平成 24 年 8 月～9 月 財団法人社会安全研究財団地域安全事業

平成 24 年 8 月～25 年 3 月 第 2 期 CIPA フォトエイド基金 支援事業

事業内容

いわき市には「じゃんがら念仏踊り」という伝統芸能があります（沖縄のエイサーのルーツとも言われる）。鉦、太鼓を打ち鳴らしながら新盆を迎えた家などを供養して回る踊り念仏の一種であり、市内では単に「じゃんがら」と呼ばれ親しまれています。主に 8 月 13

日から15日までの3日間行われ夏の風物詩となっています。東日本大震災は避難や道具の被災など「じゃんがら」にも大きな影響を与えました。今回の事業では「子供じゃんがら念仏踊りセミナー」の開催と、道具の購入により普段触れることのない伝統芸能の道具を直接触り、実際に体験する機会をつくりました。その際に踊りや歴史など知識のレクチャーなども取り入れ伝統芸能を通して、地域との連携も深めました。

そして、福島県いわき市湯本地区を拠点にいわき市平地区や好間地区などで今年8月のお盆時期に披露されたじゃんがら念仏踊りを撮影。

いわき市内の仮設住宅に避難する双葉郡檜葉町や広野町の住民をはじめ約30人の市民が参加。いわき市の伝統芸能である「じゃんがら念仏踊り」の太鼓や錫演奏を体感しながら、今回制作したじゃんがら念仏踊りDVDを鑑賞しました。

成果

夏の時期、いわき市では当たり前のように聞こえてくる「じゃんがら念仏踊り」。子供たちにとって身近な伝統芸能ではあるのですが、今までは参加したり道具に触れる機会はありませんでした。今回9月に2回開催した「子供じゃんがら念仏踊りセミナー」で実際に道具に触れることにより、普段見たり聞いたりしていただけた伝統芸能への興味がさらに大きなものになりました。さらに地域に根付いた伝統芸能について知識を深めたり参加できたことで、将来はそれぞれの地域にあるじゃんがら団体の担い手となる子供も出てくることと思います。

今後も「じゃんがら念仏踊り」という伝統芸能を守り続けていくことを考えると、この事業を長期継続できる体制作りが必要です。通年の活動をするための具体的な団体を設立するよう、教育委員会などを通じて小・中学校にも働きかけていきます。

③ 赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート基金」助成事業

「女性の心のケア事業」

事業内容

福島県いわき市内にある、東日本大震災の被災者の仮設住宅に入居されている女性の方（子供から年配の方）を対象として、ネイルアーティストさんが無償でネイルを提供しました。具体的には爪へのカラーリング、ハンドケア、ハンドマッサージなど、お客様に合わせた施術を行いました。その他、足のネイル、手のケアの仕方、美容のアドバイスなど、可能な範囲で対応させて頂きました。

開催期間

平成24年4月～9月

成果

仮設において、美容のケアが中々できない中、大変、好評を頂きまして、毎回、楽しみ

に待って下さる方もいて、とても強いつながりができました。爪を綺麗にすることで、日頃のストレス解消や気持ちがすっきりする、気分が明るくなるなど、とてもたくさんの感想を頂きました。

また、ネイルの最中は仮設の方と一対一のコミュニケーション(傾聴)をとる形になりますので、みなさん、たくさん、お話をしてくれまして、心のケアにもつながったのだと思っております。数人ではありますが、ハンドマッサージの噂を聞いて、男性の方も来て下さいました。

今回は爪の事業でしたが、入居者の方々にとって、美容系の支援は、とてもニーズがあるものと実感しました。爪だけでなく、今後、機会がありましたら、髪の毛のケアやマッサージなどさらに幅を広げた支援活動ができたらと考えております。

④ 被災地若者育成事業

実施期間 平成 24 年 11 月

事業内容

アメリカのシアトルで平成 24 年 3 月 11 日に行われたチャリティーコンサート TWinds for Hope の収益金 64,965 ドルが当団体に寄付された。いわき市で被災した学校への楽器購入・修理費に活用してほしいというシアトル交響楽団さんの意向を受けて、平商業高校・江名中学校・勿来工業高校・いわき総合高校の 4 校に楽器を寄贈しました。

平商業高等学校にはホルン、シロフォン、フィールドドラム。江名中学校にはクラリネット、トランペット、トロンボーン。勿来工業にはクラリネットとトランペット。いわき総合高校には、バスクラリネット、グロッケン、グロッケンスタンド、コントラバス、弓ケースをそれぞれいわき市内の楽器店を通じて寄贈した。

成果

平商業高校・江名中学校・勿来工業高校・いわき総合高校の吹奏楽部の活動に貢献。

⑤ 体験交流型復興支援事業スタディツアー

・事業期間

平成 24 年 4 月～25 年 3 月

平成 24 年 10 月～25 年 3 月 福島県委託事業 被災地域受入体制整備事業

・事業内容

通年にわたって、被災地支援に関心がある太平洋諸国の外国人記者をはじめ企業・団体・自治体・議会などの視察行程等のコーディネイト役を務め、延べ 2,000 人の訪問者に加えて、ボランティアや大学生延べ 500 人、合計延べ 2,500 人を案内してきた。

加えて、地元いわき市内の NPO 法人ザ・ピープルと NPO 法人インディアン・ヴィレッジ・キャンプとコンソーシアムを組み、「緑の分権改革」被災地復興モデル実証調査事業業

務の中で、被災地復興スタディツアーの実施。オーガニックコットンプロジェクト等に参加したボランティアメンバーを多数、被災現場に案内してきました。

また、被災地域受入体制整備事業では、被災地ガイド養成講座を1月から3月にかけて3回実施。各回10人、合計30人が参加し、被災地のガイド役を養成した。

・成果

再生可能エネルギーと地域産業を生かした新たな取組みモデル「オーガニックコットンプロジェクトや市民主体の再生エネルギー」を体感していただき、新たな交流人口の獲得につなげ、地域の復興・再生に貢献した。

⑥ 公益社団法人 JKA「RING!RING!プロジェクト」

被災地域の記録活動事業 浜風商店街の発刊

事業期間

平成24年8月～25年3月

事業内容

東日本大震災の被災体験を後世に語り継ぐために、記録集「浜風商店街」を発刊しました。この記録集では浜風商店街の店主さんに、被災当時の状況から浜風商店街での再開、そして未来への展望などを取材し、80頁の単行本として出版した。

成果

記録物の出版を通して、全国各地に久之浜地区の支援者を増やし、久之浜地区の復興支援につなげていくことができた。この出版物を通して、いわきの正確な震災からこれまでの歩み、そして現状をより多くの人たちに伝えることができた。

(2) 子育て支援、障がい者支援に関わる事業

・障がい児の被災者家族のためのサポート事業

赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート基金」助成事業 平成24年4月～10月

三菱商事復興支援財団復興支援事業 平成24年10月～3月

ジャパンプラットフォーム共に生きるファンド事業 平成24年7月～9月 平成24年12月～25年4月

地球創造基金みやぎ こども☆はぐくみファンド支援事業 平成25年1月～3月

・実施期間

平成24年4月～25年3月

・事業内容

東日本大震災や仮設住宅での生活が強いられている被災者。特に障害児を育てる親たちは、環境の変化に戸惑う子供たちの姿にストレスを抱えているため、被災地の障がい者家族の

生活支援のために、「交流サロンひかり」で一時預かり業務を実施した。

- ・「交流サロンひかり」での一時預かりの実施
- ・交流サロンひかりのリーフレットを作成し、郡山市内の養護学校や小中学校への配布
- ・専門家講師による勉強会と支援相談会の実施
- ・成果

5月～3月まで約280日、交流サロンひかりを障がい者家族向けに開放。定期的に利用する子供が5人。不定期に利用する子供が10人。年間を通して、延べ400人の障がい児家族が利用し、居場所を確保することができた。「交流サロンひかり」を利用している間、「仕事をすることができた」「いろいろと所用をすませることができた」と障がい者家族から言葉をいただき、利用者家族のストレス軽減を図ることができた。

JDF 被災地障がい者支援センターふくしまの支援専門員のスタッフと連携し、双葉郡8町村から郡山市に避難している障がい者家族の利用呼びかけに努め、富岡町・双葉町・葛尾村からの避難者が定期利用した。

・障害児の被災者家族のための継続的なサポート運営を目指したNPOの基盤強化
東日本大震災現地NPO応援基金（第2期）

平成24年7月～25年3月

事業内容

■常勤スタッフの雇用

・重度の自閉症の子をはじめ四六時中も目を離すことが出来ない障がい児を預る業務に取り組んでいるので、安全確保のためにもスタッフ3人を常駐させるため、新たにホームヘルパー等の資格を有する2人を新規採用しました。

平成24年7月～25年3月

■地元NPO法人との連携事業の展開

・いわき市のNPO法人ザ・ピープルとNPO法人インディアンビレッジキャンプとコンソーシアム「いわき・おてんとSUNプロジェクト」を結成し、総務省緑の分権改革・被災地復興モデル事業「市民によるサスエ創出プロジェクト」を展開。9月29日にそのキックオフイベントをいわき市で開催した。

現在進行中で25年度も継続事業として展開する予定です。

<http://www.iwaki-otentosun.jp/>

■障がい者施設の見学・研修

・郡山市および田村市にある障がい者施設、児童の放課後一時預かり施設や日中一時預かり所、就労支援事業所、障がい者のグループホーム施設を見学・研修で訪問。

地域が抱える障がい者、特に障がい児の取り巻く環境や地域課題を学ぶとともに、実際に絵カードなどの手段で子供たちとコミュニケーションを図る現場から、「交流サロンひか

り」の運営にあたってスタッフのスキルアップに努めた。

＊研修訪問先

郡山市

ふっとわーく

交流サロンしんせい

福島あすなる会

児童ディサービス らくりあ

日中一時預かり支援事業所 遊

にんじん舎 etc

田村市

「あぶくま更生園」

「のびっこらんど田村」

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の 事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の 人数	受益対象者の 範囲及び人数	支出額 (千円)
東日本大震災の被災者に対する復興支援事業	全日本社会貢献団体機構助成事業「ほのぼの温泉プロジェクト」	平成 24 年 5 月～9 月	いわき市	4 人	原発警戒区域からの避難住民 1,800 人	3,800
東日本大震災の被災者に対する復興支援事業	じゃんがら念仏踊り継承育成事業	平成 24 年 8 月～25 年 3 月	いわき市 内	5 人	一般市民およびいわき市内の小中高生 100 人	2,500
東日本大震災の被災者に対する復興支援事業	赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート基金」助成事業 「女性の心のケア事業」	平成 24 年 4 月～ 10 月	いわき市 内	2 人	原発警戒区域からの避難住民 200 人	779
東日本大震災の被災者に対する復興支援事業	被災地若者育成事業	平成 24 年 11 月	いわき市	2 人	いわき市内の 高校 150 人	5,069
東日本大震災の被災者に対する復興支援事業	・体験交流型復興支援事業スタディツアー	平成 24 年 4 月～25 年 3 月	いわき市、双葉郡 広野町、楡葉町、田村市	20 人	一般市民 2,500 人	4,200

東日本大震災の被災者に対する復興支援事業	公益社団法人 JKA「RING! RING!プロジェクト」被災地域の記録活動事業 浜風商店街の発刊	平成 24 年 8 月～25 年 3 月	いわき市	4 人	一般市民、小中学生 300 人	2,968
子育て支援、障がい者支援に関わる事業	障がい児の被災者家族のためのサポート事業	平成 24 年 4 月～3 月	郡山市	8 人	障がい者とその家族 400 人	6,768

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	支出額(千円)
物品販売事業	当年度は未実施				

備考

- 1 2 は、(1)には特定非営利活動に係る事業、(2)にはその他の事業について区分を明らかにして記載する。
- 2 2 の(1)については事業毎に定款の事業名、事業内容、実施日時、実施場所、従事者の人数、受益対象者の範囲及び人数並びに支出額を記載する。
- 3 2 の(1)のうち「受益対象者の範囲及び人数」の欄には、具体的な受益対象者及び人数を記載する。
- 4 2 の(2)については事業毎に定款の事業名、事業内容、実施日時、実施場所、従事者の人数及び支出額をそれぞれ記載する。定款上、「その他の事業」に関する事項を定めている場合は、当該事業年度に実施しなかった場合も「実施しなかった」旨を記載する。
- 5 用紙の大きさは、日本工業規格 A 列 4 番とする。